

NHO フェローシップ プログラム申請書

1. プログラム名：リウマチ関節外科プログラム

病院名：大阪南医療センター

2. 診療科（専門領域）：リウマチ関節外科

3. コースの概要

●留学期間中の6ヶ月間に、リウマチ関節外科として専門性の高い手・足の手術の適応と手術プランニングと手術技術を習得します。

●関節外科手術のためのコースであるが、チーム医療で行うリウマチ治療全体を学びます。関節外科的知識・技術の習得にとどまらず、毎週リウマチ内科・関節外科のカンファレンスに参加し、呼吸器疾患を含むさまざまな臓器病変の早期発見、早期対応のための知識を習得し、全人的な眼で患者を診療する能力とチーム医療の中で貢献できる能力を養います。

●リウマチ患者の長期の薬物治療の中で、患者の骨と関節をいかにして守るかに必要な骨代謝の専門的知識・診療能力、関節の評価技術（超音波検査手技、X線の撮影方法と読影法、機能評価方法）を身につけます。

4. 目標

一般目標：手術手技のみならず、薬物療法での骨関節の保護、運動機能障害の出現や進行にいち早く気づくための診療能力、リウマチ患者に見られる多くの関節外臓器病変をいち早くとらえる診療能力、患者への情報提供能力を含むリウマチ医療全体での診療能力を高めることを目指します。その中で、手術による機能改善の考え方を学びます。

短期目標：留学期間内にリウマチ関節外科専門領域における手術の適応、プランニング、手技とその背景にある考え方を学ぶことを目標とします。

【期間内の目標手術経験数（術者数/経験数）】

上肢手術：10例/50例

下肢手術：10例/50例

長期目標：リウマチ関節外科学の深い理解と手や足の部位ごとに異なる専門性の高い知識を取得します。同時に、リウマチ患者の全身の問題を自然に把握できる幅広い臨床能力を養い、全人的医療およびチーム医療を行えるリウマチ関節外科医、リウマトロジストの育成を行います。

6. 取得手技

リウマチ関節外科に必要な患者の運動機能障害の診断技術（手術適応の判断が適切にできる診断技術）、外来診療での患者への情報提供法、手術術式のプランニング技術、手術手技、骨折手術の手技、術前術後管理、術後のリハビリテーションの方法、術後運動機能の評価方法、各種検査手技（超音波検査など）を学びます。

7. 研修期間：6 ヶ月間

8. 募集人数：同時期は1名のみ

9. 診療科の実績と経験（術者もしくは助手）目標症例数（任意）

【リウマチ関節外科】

No.	疾患	実績（年間）	目標件数（6 ヶ月間）
1	前足部関節形成手術	44	22
2	手関節形成術・手関節固定術	7	4
3	手指関節形成術（人工関節含む）	25	13
4	人工肘関節置換術	8	4
5	人工足関節	6	3

10. 診療科の指導体制

診療科	常勤医師数	指導責任者（経験年数）
整形外科	11	平尾 眞（26年）
リウマチ・膠原病科	5	大島 至郎（35年）

11. コンセプト

本コース選択者は、リウマチ関節外科の技術を習得するだけではなく、リウマチ患者の全人医療を行う感性と能力、チーム医療のなかで貢献できる能力を養います。当院は通院リウマチ患者 2 千数百人と症例が豊富で、リウマチ内科とリウマチ関節外科の専門性を持つ医師が、チームでリウマチ診療を行い、かつ十分な教育体制が整っており、この目的を全うするための条件が整っています。

12. 一般目標

手術手技のみならず、薬物療法での骨関節の保護、運動機能障害の出現や進行にいち早く気づくための診療能力、リウマチ患者に見られる多くの関節外臓器病変をいち早くとらえる診療能力、患者への情報提供能力を含むリウマチ医療全体での診療能力を高めることを目指します。その中での、手術による機能改善の考え方を学びます。

13. その他

関連領域の研修に関して：留学期間内に必要症例数をクリアし、リウマチ内科、呼吸器科での研修を希望する者には考慮します。

共通領域研修について：院内開催の卒後教育研修や院外セミナー・研修・講演会に自由に参加できます。